

P2-024

A地域における幼児の足と靴に関する実態調査

小林 睦、橋本 佳美、弓削 美鈴、鈴木 千衣、柴田 眞理子、小山 智史、阿藤 幸子、二神 眞理子、柳澤 佳代

佐久大学 看護学部 看護学科

【目的】

子どもは3歳頃から土踏まずが形成され始め、階段の昇降やスキップなどの複雑な運動を獲得する。歩行運動で重要なものは、足底の知覚運動神経への刺激であり、円滑な歩行や健やかな成長発達へとつながる。本研究の目的は、A地域における幼児の足と靴に関する実態を明らかにし、子どもと保護者への健康教育プログラム検討の一助とする。

【研究方法】

1)調査対象：A地域における保育園・幼稚園の年中クラスの保護者168名2)調査期間：2018年9月3)調査方法：幼児の保護者への質問紙調査4)調査内容：足のトラブル、靴の選び方、靴の履き方について5)分析方法：記述統計の算出6)倫理的配慮：所属機関の研究倫理審査委員会の承認を得た。(承認番号：2018009)

【結果】

1) 回収数は130名(77.4%)であった。2)足のトラブルは、複数回答で45件(34.6%)あり、靴擦れ18名(13.8%)、爪が割れる18名(13.8%)、まき爪4名(3.1%)、その他5名であった。3)普段履いている靴は、スニーカーが最も多く125名(96.1%)であった。靴を選ぶ時の優先度は、「足に合っている靴」85名(65.4%)が多く、次に「デザイン」「歩きやすさ」であり、子どもの足に合っていると感じている保護者は、68名(52.3%)であった。靴を買って失敗した経験のある保護者は、61名(46.9%)であり、失敗の原因は「直ぐに壊れた」19名(31.1%)、「履くと痛い」18名(29.5%)、「サイズ違い」9名(14.8%)であった。4)靴の履き方でいつも心がけていることは、「紐やベルトを締め直す」53名(40.8%)、「かかとをつぶしての着脱」4名(3.1%)、「かかとをフィットさせる」23名(17.7%)、「足指のゆとりのあるように履く」34名(26.1%)、「中敷き」45名(34.6%)であった。5)健康教育を受けた経験は、34名(26.2%)で、足や靴に関心のある保護者は77名(59.2%)であった。

【考察】

約半数の保護者は足に合う靴を選び、靴が合っていると感じている。しかし、約3割の幼児には、靴擦れや爪が割れるなどのトラブルがあり、実際の足のサイズや靴の正しい選び方、履き方が出来ていない可能性もあると推察される。また、足や靴に関心のある保護者は多いが、今までに健康教育を受ける機会が少なかったと考えられる。今後、健康診査等の機会を活用した健康教育プログラムを検討していく。本研究は平成29 - 31年度私立大学研究ブランディング事業「足育(あしく)研究プロジェクト」の一部である。

P2-025

足と靴に関する実態調査 ～高校生の男女差に焦点をあてて～

二神 眞理子¹、弓削 美鈴¹、橋本 佳美¹、鈴木 千衣¹、柴田 眞理子²、小林 睦¹、小山 智史¹、阿藤 幸子¹、柳澤 佳代¹

¹佐久大学 看護学部 看護学科

²佐久大学 別科 助産専攻

【目的】

高校生は自身で靴を選び購入し始める時期であり、正しい靴選びの知識が必要になる。そこで、高校生の足のトラブルと靴の選び方、履き方の実態を明らかにすることを目的に調査を行い、性差について分析した。

【研究方法】

1)調査対象：A地域のC高校2年生130名2)調査期間：2018年10月3)調査方法：質問紙調査4)調査内容：足のトラブル、靴の選び方、靴の履き方5)分析方法：記述統計を算出。性別と各項目は χ^2 検定を実施。6)倫理的配慮：所属機関の倫理審査を受け実施した。(承認番号:第2018009)

【結果】

回収数は107名(82.3%)で男子51名、女子56名であった。足のトラブルは34名(31.8%)に46件あり、まめ10件(21.7%)、靴擦れ9件(19.6%)の順に多かった。普段履いている靴はスニーカーが最も多く82名(76.6%)であった。靴を選ぶ時の優先度は「デザイン・色」が全体の56名(52.3%)と最も多く、男子20名(39.2%)に対し女子は36名(64.3%)であった。靴を買って失敗した経験は全体の27名(25.0%)にあり、男子6名(11.8%)に対し女子は21名(37.5%)であった($P<0.01$)。失敗の原因は「履くと痛い」11名(10.2%)が最も多かった。自身の足幅を把握している人は12人(12.2%)であった。靴の履き方において実施しているという回答が少なかった項目は、「紐やベルトを締め直す」48名(45.3%)、「かかとをフィットさせる」44名(40.8%)、「中敷き等で工夫する」24名(22.2%)であり、実施していない割合は女子の方が多かった。健康教育を受けた経験は2名(1.9%)にすぎず、足や靴に関心のある人は34名(31.8%)であった。

【考察】

足にトラブルがある高校生は約3割だが、足や靴への関心は低く、トラブルを正確に把握できていない可能性がある。約8割は自身の足幅がわからず、選び方においてもデザイン重視であることから足に合わない靴を選んでいる現状がある。特に女子にその傾向が強く、靴の選び方には男女差がみられており、性別を考慮した足の健康教育プログラムの内容・方法を検討し、正しい靴選びが出来るよう指導していく必要がある。本研究は平成29 - 31年度私立大学研究ブランディング事業「足育(あしく)研究プロジェクト」の一部である。